

総合型地域スポーツクラブの現状と支援における課題

The present conditions of community sports club and issues about the supports

1K05A049

指導教員

主査 中村好男先生

奥山 晃太

副査 宮内孝知先生

【緒言】

我が国では少子・高齢化が急速に進み、2050年にはほぼ3人に1人が65歳以上になると予想される。その中で、一人一人が健康的で活力のある生活を送るために生涯スポーツというスポーツの在り方が浸透してきている。このような背景のもと、1995年から2003年までの間、文部省（現・文部科学省）は「総合型地域スポーツクラブ（以下総合型クラブ）育成モデル事業」を実施、2001年からは10年計画の「スポーツ振興基本計画」を策定し、子どもから高齢者までの幅広い世代の人々がスポーツを実施できる環境として総合型クラブが整備されてきている。しかし、スポーツ振興基本計画中の「2010年までに総合型クラブを全国の各市区町村に少なくとも1つは育成する」という大きな目標とは裏腹に、その育成率は60%を下回っており厳しい状況にある。本研究の目的は、総合型クラブの育成を推進していくために、総合型クラブの実態を把握し、また総合型クラブ関係者へのアンケート調査を通して、総合型クラブの支援における課題を明らかにすることである。

【方法】

1) 資料等から全国の総合型クラブに関する実態を把握する。

2) 総合型クラブ関係者（クラブマネージャー、事務局）を対象としたアンケート調査を行い、総合型クラブに内在する問題を取り上げ、支援面からの考察を進める。調査内容は以下の通りである。

a. 総合型クラブの属性に関する項目：所在地、設立年度・契機、会員数、プログラム数、年齢

構成、補助金の有無

- b. 総合型クラブに対する支援の実態に関する項目：クラブの支援団体、支援内容
- c. 支援に対する評価に関する項目：支援の優先度、支援に対する満足度、支援格差の有無総合型クラブの属性、支援の実態、支援に対する評価の3つの側面から、総合型クラブの特徴・問題点を示していく。

【結果・考察】

アンケートを送付した157クラブ中45クラブから回答を得ることができた（回答率28.7%）。

- 1) 多くの総合型クラブ関係者が行政や広域スポーツセンターから資金面や運営面での支援を受けているが、69%の人が不満を抱いていることが明らかになった。支援を多く受けているにも関わらず満足度が低いケースが多く、これは受けている支援が必ずしもニーズに合ったものではないということを示している。また、地域間の支援格差の存在を認める人が85%と大変多かった。しかし、得られデータからは属性との関連性をはっきりさせることはできなかった。
- 2) 支援の優先度は「資金支援」「運営支援」「人材育成支援」「広報支援」「情報支援」「設立支援」の順で高かった。特に、モデル事業クラブにおいて資金支援を重要視する傾向が見られた。モデル期間内は事業委託（受託）金が交付されるが、収支構造が確立する前にモデル期間が終了してしまうため資金面での支援が重要視されると考

えられる。

【まとめ】

本研究により、多くの総合型クラブ関係者が支援に対して不満を持っていること、地域間格差の存在を認めていることが明らかになり、支援体制に問題があることが分かった。しかし、市町村合併による国土再編により、総合型クラブの育成率を正確に計ることができず、地域間の育成・支援格差を確証するデータを得ることができなかったことが本研究の限界である。今後は、1)支援の多量・

多様化、2)支援する側と支援を受ける側の食い違いを解消していくことが最重要課題となる。

クラブの実情を見ても、理想とされる自立した総合型クラブはまだまだ少なく、自立へ移行できる段階までの支援は継続していく必要があると考える。また支援をする際に、総合型クラブに対する地域住民からの認知度を高めていくことに力を入れていくことが重要だと思う。総合型クラブという「環境」が広く整備され、それが認知され利用されることによって、生涯スポーツ社会は実現されていくだろう。